

概要報告

実施期日	7月31日(金)
部会名	中学校 技術・家庭(技術分野)部会

テーマ 『設計の場면을重視した授業づくり』

～工夫し創造する能力を育むために～

提案概要

- ・3年間を見通した指導計画、評価計画の作成と学習指導の工夫・実践的・体験的な学習活動、問題解決的な学習、言語活動の充実をめざした学習指導の工夫
- ・少ない授業時間数の中、3年間を見通した実習計画の立案が必要である。
- ・デジタル設計図プリントの中に、他の人からの忠告が付せんによって受け入れられる設計図プリントを使った授業紹介。
- ・動画編集ソフトを使っての「3年間ありがとう」をテーマに、ムービーを写真5枚以上で制作させる。
- ・3年生での授業活動内容紹介
 - ①作り方(操作は1. 2年の授業の中で行う。) ②先輩たちの作品鑑賞 ③ 設計図のプリント制作
 - ④意見交換 ⑤付せんによる要望 ⑥再検討 ⑦制作(完成) ⑧発表 ⑨制作後の感想
- ・設計の手直しが容易なデジタル作品を指導するうえで、詳細な設計こそ難しいことが多い。

質疑概要

デジタル写真の取り方は？

→基本的には個人で用意し指定された場所に保管しておく。(校内で撮影に立ち会う事もあった)
全生徒が公平にデジタル化できる状況にあるのか？

→カメラ不足は地域的に考えにくい状況で来年もできる環境にある。

付せんを利用した理由はなにか？

→言語活動の場面設定と簡単な文章で意見と正誤が判断しやすく楽しむ生徒も多かった。
評価の工夫や方法の過程について参考になる事があれば、知らせてほしい。

→創造工夫の観点において目的が達成されているかをABCの3段階で評価した。

研究協議概要

3～4人のグループに分かれて情報交換を兼ねた協議を行い、各グループからの報告が行われた。

協議の柱

- デジタル作品の題材について(どのような作品を制作しているか)
 - ・プレゼンテーションソフトの利用から動画編集ソフトが大半で、設計から制作・発表までが行われている。
 - ・題材としては、学校紹介、思い出、部活動、自己紹介、CM、食品成分表・食事摂取基準を利用したもの、生物育成の記録などが行われている。
- 「D 情報に関する技術」において、言語活動をどのように取り入れていくか
 - ・班内の話し合いや作品から制作技術を読み取り、完成品の鑑賞などの場面で行われ、言語活動自体が目的にならないよう留意する必要がある。
 - ・発表するルール、聞き取るルールの確立が必要ではないか。
 - ・デジタル作品は制作過程に必要な記号やアイコンの理解そのものが言語活動につながっているのではないか。

まとめ概要

今回の内容では、「D 情報に関する技術」の領域であり、技術面はもちろんのこと、制作などに授業のねらいや目標を明らかにして取り組む必要があると感じる。

今回の実践では、付せんの活用の意味を生徒にきちんと伝え、よかったことや改善点などを記入させ、修正のヒントにできていたのではないかな。

「楽しく、良かった」で終わらず、技術の技能的な内容に触れているところを重視していくことや、評価は規準にそって工夫して一般社会に解りやすい基準をもって行う必要がある。

特に、技術・家庭科は以前よりマルチに評価してきた事が史実でもある。何をどこに当てはめていくかが大切。関心・意欲は将来に意欲をもてたかが大切で、創意工夫は設計段階で評価することが多くある。

Dの領域では、時間・材料・コンセプトの制限が必要であるが複数メディアを・・・とあるので現状で足りていると考えられる。知識理解はテストで6～7割取れるテスト内容を考える必要があると思われる。

将来にわたって体験的・実践的な教育が重視されていくので、教職員の年齢の2極化が進むなか、受け継がれる技術力・教育力が心配される時ではあるが、今回のような機会に連携して研究していきましょう。